

萌黄 (もえぎ) 通信



みなさんこんにちは。10月に入り一段と陽が短くなってきましたね。毎朝5時近くから始動するのですが、ハイエース内の荷物を確認する時には、懐中電灯が必要になってきました。早いもので、残り2カ月半くらいで今年も終わりですね。やり残しの無いように気を引き締めていきたいものです。

「B級グルメ優勝・甲府鳥モツ煮」

先日、B級グルメの1位に鳥モツ煮がなってから、甲府の町中の飲食店では、甲府鳥モツ煮と書かれたノボリが増えてきましたね。私の家の近くの「道の駅」のレストランでも（甲府市ではないのに・）モツ煮はじめましたと言うノボリがかかっていたのを「便乗だな」と思いつつ、甲府市への観光客が増えればいいなと思いました。最近では、セブンイレ

ブンの惣菜コーナーで鳥モツ煮を発見しました。何と鳥モツ煮の考案者の塩見力造さんと共同開発との事です。これならおいしいに決まっていると、思わず手にして買ってしまった堀内貢次です。



「十和田石の浴室洗浄」

今回の石材メンテナンスは、十和田石の浴室洗浄とノンスリップ仕上げの現場からです。

十和田石というと、凝灰岩の目の粗さから滑りにくいイメージがあり、浴室内では床石に使用されるのですが、石の特質は吸水性が特に高いために、使用し始めると石鹼カスや、人から出る油脂（アカ等）、水自体のカルキ分を吸い、段々と石目がふさがってきます。そうなるとうり滑りやすい石が、非常に危険なくらいに滑りやすくなってしまいます。

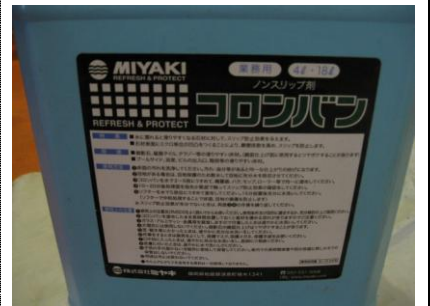
こうなると、根本的な洗浄が必要になってきます。

浴室内の石の汚れは複合的で、洗浄する洗剤も数種類必要になってきます。石鹼カスや、油脂等の洗浄には、石材用アルカリ洗剤を使用し、水垢等には、酸性洗剤を使用する必要

があります。ブラシは硬めの物を使用し十和田石を少し砥ぐくらいに洗っていきます。



この2種の洗剤による交互の洗浄だけでも、十和田石本来の薄い緑色の表面が出てきて、滑り難くなりましたが、今回は、介護施設ということもあり、最終的に、滑りとめ剤（ミヤキ「コロンバン」）を塗布し、より滑り難くして完了しました。



山西黒壁の研磨

山西黒の壁石に、酸性洗剤をかけてしまったようで、石の表面の色とツヤが抜けてしまい研磨施工の依頼がきました。黒系の石の研磨の場合、ツヤは戻ってきても、最後に黒色味が付きにくいので、研磨と染めの技術の経験の豊富なO氏と仕事をしました。見事復元です！



（編集後記）先日、慢性鼻炎で、鼻の手術をしましたが、結果は良好で、両鼻の通りがいいのは25年振りのことです。＼(^o^)／。後は、来春の花粉発生時期にどうなるかが、心配なところです。

萌黄通信 毎月1回発行

発行編集責任者 (株) ケイ・アンド・エス 堀内貢次

(東京出張所) 東京都港区浜松町1-1-10 タスク内

(電話) 03-3431-1293 (Fax) 03-3431-7198

<http://www.e-kands.jp>

(メール) info@e-kands.jp